

学会便り

第95回シンポジウム  
「電子顕微鏡による材料研究 (Ⅱ)」  
～ミクロ組織観察の現状～ 開催報告  
The 95th JILM symposium report  
“The study of materials with electron microscope (Ⅱ)”  
～The state of microstructure analysis～

青谷 繁\*  
Shigeru AOYA\*

平成27年7月3日(金)に、第95回シンポジウム「電子顕微鏡による材料研究 (Ⅱ)」～ミクロ組織観察の現状～が、早稲田大学西早稲田キャンパス55号館N棟1階大会議室にて開催され、29名が参加した(図1)。本シンポジウムでは、学会誌「軽金属」の連載講座『電子顕微鏡による材料研究』の内容をもとに、電子顕微鏡を用いた材料評価技術の紹介と具体例についてご講演いただいた。当日の講演プログラムと講演者(敬称略)は以下の通りである。

- 1) 透過型電子顕微鏡による析出相の核生成・成長挙動解析  
東京工業大学名誉教授 里 達雄
- 2) スピノーダル分解機構とその透過電顕法による解析  
愛媛大学名誉教授 仲井清眞
- 3) 超高压電子顕微鏡  
大阪大学 保田英洋
- 4) 異種原子注入  
北海道大学 柴山環樹
- 5) 透過電子顕微鏡内その場加熱実験と環境電子顕微鏡法  
(いくつかの実例と今後の可能性)(欠講)  
名古屋大学 佐々木勝寛
- 6) 電子線トモグラフィによる高分子微細構造の解析  
東北大学 陣内浩司
- 7) 電子顕微鏡を用いた解析に関する個別相談会

講演では、微量添加元素の時効析出に与える影響について透過電顕を用いた評価内容、スピノーダル分解における変調構造の解析、超高压電顕の特徴と実際の解析事例、レーザーやイオン照射を取り入れた超高压電子顕微鏡による原子注入例、電子顕微鏡を用いた3次元イメージングのこれまでの課題と定量化技術の動向など、解析だけでなく顕微鏡を用いた改質という内容に至るまでをご講演いただいた。

また、前回同様にシンポジウムを閉会した後、個別相談会という形でご講演いただいた先生方とシンポジウム参加者が自由に議論する時間を設定した。今回のシンポジウムの内容にかかわらず日頃の疑問点の解消につながればと計画したものである。

今年も梅雨時期の開催であり、当日もあいにくの雨模様となったが、相談会では一部の受講者と先生方で議論されてい



図1 講演中の様子



図2 個別相談会の様子

た(図2)。シンポジウムの運営に当たっては、1講演あたりの時間をもう少し取るべきであった。アンケート結果からも伺えるが、内容が充実しているため45分では厳しいと思われる。講演する事例選択が難しいが、より理解度の増すシンポジウム運営を事務局として実施できるよう努めたい。

最後に、第92回および本シンポジウム開催にあたり、連載講座執筆後のお忙しい中お引き受け下さった講演者の皆様、連載講座担当の富山大学 松田健二先生に改めてこの場をお借りして御礼申し上げます。

世話人 名古屋大学 小橋 眞  
工学院大学 阿相英孝  
昭和電工(株) 青谷 繁